

第134回 岐阜歯科学会例会

と き 平成12年10月21日 (土) 午後1時より
 ところ 朝日大学1号館3階 第1大講義室

一般講演

1. 臨床的および免疫組織化学的検索による unicystic ameloblastoma の生物性状の検討

赤坂 壽彦 (朝日大・歯・口腔病理)

<目的>

ameloblastomaの1つであるunicystic ameloblastoma(UA)は、より若年者に発症し、侵襲性が低く再発はほとんどない等の点において、plexiform typeやfollicular typeのような通常型エナメル上皮腫(CA)と異なっていることはよく知られている。このようなUAとCAの臨床的性状の差異は両腫瘍の実質細胞の生物学的性状の違いに起因するものと考えられる。そこで今回、この点を明らかにすることを目的として、免疫組織化学的検索によって、3種のマーカー発現の対比観察を行った。

<材料と方法>

40例のameloblastomaをUAとCAに類別し、それぞれの臨床的調査を主訴、来院時年齢、性差、発症部位、X線診査および経過の6項目を対象として行うと同時に、PCNA(proliferating cell nuclear antigen)および接着性タンパクであると同時に腫瘍発生にも関係しているE-cadherinと β -cateninの発現を免疫組織化学的に検討した。なお、免疫組織化学的検索の対照として、胎生13日齢から生後2日に至るマウス歯胚の染色性をも併せて観察した。

<結果>

組織型類別では、UAは15例、CAは25例であった。これら各症例の臨床的調査の結果、UAとCA間において、主訴、来院時年齢、経過と予後に違いがみられ、性差、発症部位、X線所見には違いは認められなかった。主訴については、CAでは患部腫大の他に疼痛や口唇麻痺を訴える例(7例)があったのに対し、UAはすべて腫大のみを訴えた。来院時年齢は、例外的高齢者を除くとUAが27.5歳、CAが31.5歳でUAに低く、また、経過と予後では、CAにのみ再発例(7例)があった。

次に、免疫組織化学的検索の対照としたマウス歯胚では、胎生13日齢の蕾状期歯胚上皮にはいずれのマーカーも認められなく、同14日齢の帽状期歯胚上皮にPCNAのみ発現があった。同14.5日齢から生後0日齢の一連のベル状期、生後1日齢の象牙質形成期および生後2日齢のエナメル質形成期の歯胚上皮にPCNAとともに、E-cadherinと β -cateninが発現した。しかし、E-cadherinの発現細胞数はいずれの時期でも少なく、これに対して β -cateninの発現は多数の細胞にわたる

傾向にあった。

さらに、CAとUAにおいては、前者ではPCNAの発現が極めて多く、E-cadherinは極めて少なく、 β -cateninは中等度の細胞数が発現を示し、UAではPCNAとE-cadherin発現は少なかったが、 β -cateninが極めて多いという両腫瘍において相反する所見を呈した。

さらに、マウス歯胚上皮およびCAとUAにおいて、PCNA発現細胞と β -cateninの発現細胞は多くの場合、一致しないという特徴も認めた。

<考察と結論>

β -cateninはE-cadherinと結合することによって細胞接着、およびこれを通じてmorphogenesisに関わっているだけでなく、さらに腫瘍抑制遺伝子の調節物質として腫瘍発生にも関係している。今回のCAとUAに共通してみられたPCNAと β -cateninの拮抗的な結果は、組織侵襲性を中心として種々の違いのある両腫瘍間の生物学的性状の差の1つにPCNAの発現から窺うことのできる細胞増殖性の違いが大いに関係していることが明らかであり、しかも β -catenin発現がPCNA発現を抑制していることが窺え、ひいてはこれら発現物質の有無と程度がCAとUAの生物学的性状の差異につながることを示唆された。

(学位請求論文)

2. ヒト口腔スピロヘータ *Treponema medium* の細菌共凝集能およびPCR法による歯垢内検出

呉城 英俊 (朝日大・歯・口腔細菌)

<目的>

成人性歯周炎患者の口腔から分離培養した中型スピロヘータである *Treponema medium* の病原性の一端を明らかにするために歯周病原性細菌 *Porphyromonas gingivalis* との共凝集現象について各種因子の影響、両菌種の共凝集因子の化学的性状ならびにその局在について形態学および免疫学的手法により調べた。また、*T. medium* の16S rRNA遺伝子の超変異領域と相補結合するプローブを用いて、ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)法による歯垢中の口腔スピロヘータの検出について検討した。

<材料および方法>

1. 供試細菌として、*T. medium* ATCC 700293, *Treponema denticola* 2菌株, *T. socranskii* 2菌株, *T. phagedenis* 2菌株, *T. pallidum*, *T. vincentii*, *P. gingivalis* 8菌株, *Prevotella intermedia* *Actinobacillus actinomycetemcomitans*, *Fusobacterium nu-*